

題点が残されているが、これらを集約し、これらの解決を図るため、実態の集約など、遂

次、実施計画を進め、これらの成果が得られるよう、その対応策に努力をそそぎたい。

機械加工による作業手順の指導実施の概況について

1. 目 的

機械加工による作業が、未熟練工でも就労できるように、作業進捗や作業管理が行ない易いように、作業分析により工程の短縮を図り、生産性の向上を図ることを目的として、実地指導を行なった。

2. 概 要

作業手順の立案の順序と内容は、種々の事項を考慮し、資料等の作成を行ないながら、具体的には次の手順で行なった。

2・1 各工程間の流れを明確にするため、作業工程図を作成、各部品別の部材構成表を作成した。

各部品別組立の手順表により、作業経路を明示した。

2・2 作業分析表の作成にあたり、次の事を考慮して決定した。主製品は何か、部材および工数の最も多いものは何か等、作業の流れを充分検討して行なった。

2・3 初期の段階で図表等の作成により各部品別の作業分析図を試みて実施した。

3. 経過および成果

この作業分析による、工場の作業実績によると、作業期間が短縮でき、仕掛品が少なく技術管理が容易で、作業も専門化し、技術的な訓練なども行ない易く、未熟練工でも就労のできるような利点の結果が得られた。今後も各種の作業分析により、実地指導を行ない、作業性の資質の向上を図る。

住宅における装備器具の試作研究

(含む、未利用県産材の開発研究)

研究員 東 郷 信 王

研究員 末 吉 光 雄

1. 目 的

県産材を家具、内装材への利用研究と附加価値向上と材質の特性を生かし、離島産業の開発発展と、壁面構成品、間仕切家具ユニッ

ト棚等のシステム家具の研究試作を行なう。

2. 概 要

奄美大島産材の小径木を利用、住宅内装材